

2025/9/22

## これが新しい学び方？「教科書 AI ワカル」も先行体験！

～学習者用デジタル教科書ワークショップ 2025年夏休み版～

#教科書 AI ワカル #NEWHORIZON #学習者用デジタル教科書



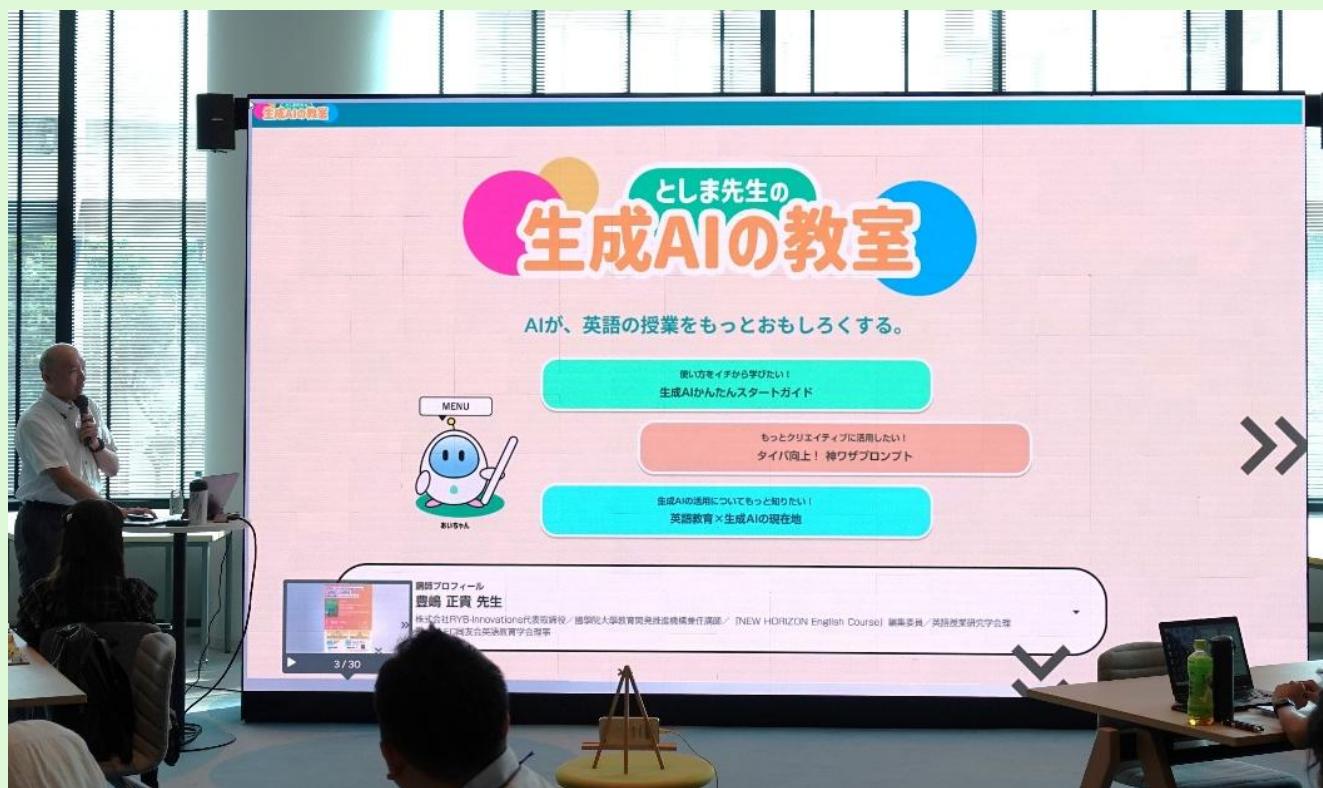
東京書籍は2025年8月4日、TOPPAN小石川本社ビル2階WA0（東京都文京区）において、学習者用デジタル教科書を効果的に活用するためのワークショップをフューチャーインスティテュート株式会社と共同で開催しました。

第2回目の開催となる今回はデジタル教科書のワークショップに加えて「教育×生成AI」のプログラムを新たに追加。英語教育における生成AIの活用紹介講演や、弊社が開発中の教科書学習用AIアシスタント「教科書AIワカル」の先行体験も実施しました。

本稿では「教育×生成AI」に関するプログラムをピックアップ。生成AIについての情報が溢れる今日、教育現場でもその活用が一部で進んでいますが、生成AIによって今後の授業は何が変わるのでしょうか？ 実際に体験された先生方はどのような感想を抱かれたのでしょうか？ 最新情報を届けします！

東書 NEWS! | No.11

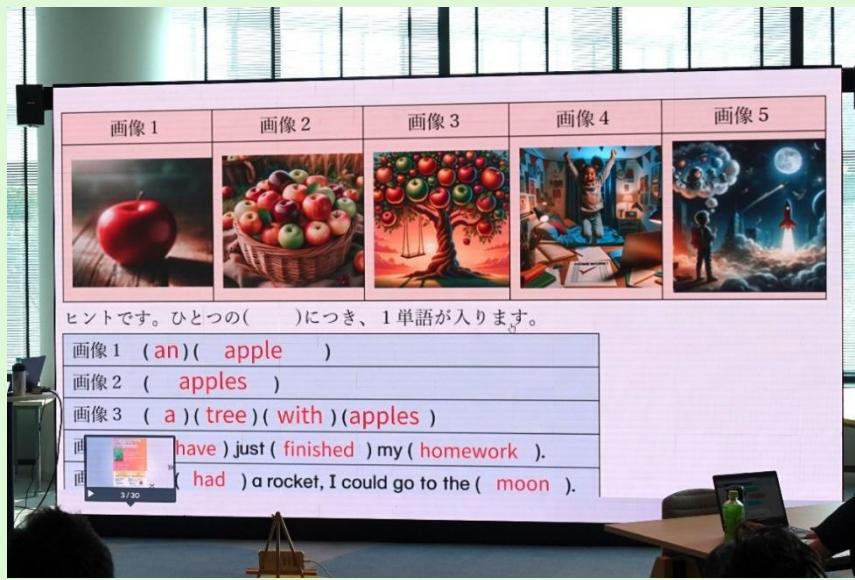
## 豊嶋先生による生成 AI 活用紹介講演



「教育×生成 AI」プログラムは、國學院大學教育開発推進機構兼任講師の豊嶋正貴先生による特別講演からスタート。「表現する意欲も力もアップ！生成 AI 活用紹介」を講演テーマに、「としま先生の生成 AI の教室 (<https://nhc-ait.tokyo-shoseki.co.jp/>)」を使って、テーブルごとの活動も交えながら進行していきました。参加された先生方 17 名のうち約 5 割が普段から生成 AI を使用しており、中には有料版を利用されている方もいるそうで、参加者の関心の高さがうかがえました。

講演中の活動は、自己紹介の流れで地名の由来を ChatGPT に聞いてみたり、ウェブサイトで紹介されているプロンプトの「朝礼スピーチメーカー」を用いた 1 分間スピーチの作成をしたりとまずは基本機能を活用する練習を行いました。次に実際の授業で使うことを想定し、英語の授業の本時の到達目標（めあて）を生成 AI で作成した画像で生徒に提示する方法を紹介しました。



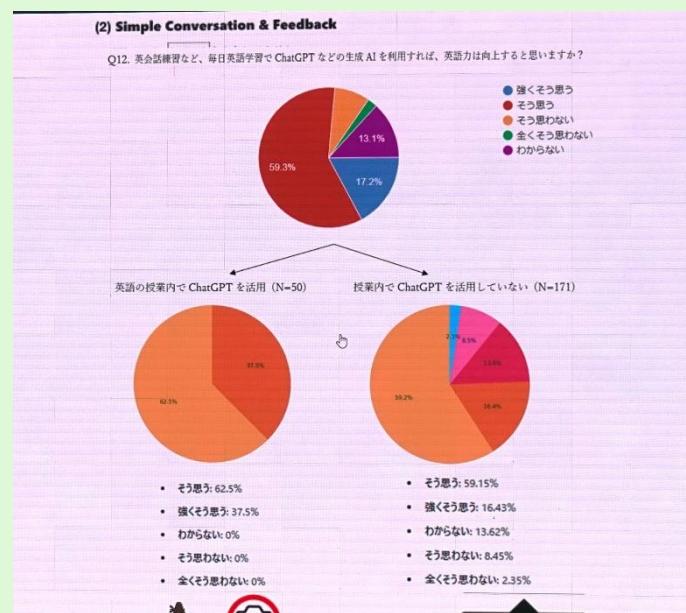


### 学習の選択肢としての「生成AI」

豊嶋先生によると、生成AIの活用による今後の授業の可能性を提示した上で、子どもたちに今後求められる力は、生成AIから引き出した回答が適切であるかを「選ぶ力」だそう。例えば、生成AIが作成した複数の英語の中から、どれが一番相手に伝わるものかを選べる英語力を、子どもたち自身に養う必要があると言います。

また、子どもたちが生成AIを学習方法の選択肢の一つであると捉えるためには、先生方が「まず知ること、そして体験してみること。知った上で使う・使わないを選択することが重要で、自分の情報も常にアップデートしていく必要があります」と話されました。

その一例として、豊嶋先生の大学で行われたアンケート（右画像）では、授業で生成AIを活用した学生（左側）は、「生成AIを利用すれば、英語力は向上すると思いますか？」に対して、100%の学生が「そう思う」「強くそう思う」と回答しています。生成AIを授業に導入することへの賛同する割合が高いという結果が出ています。この結果から、生成AIを適切に使い続けることで子どもたちの意識は変化するとし、これからは先生がその効果的な使い方を示す必要があると結びました。



豊嶋先生

### \*豊嶋先生に生成AIの今後について聞きました\*

生成AIは今後出てくる一方で、なくなることはありません。そうである以上、せっかくなら楽しんで使っていきたいですよね。生成AIのために何か新しいことを始めるというよりは、今やっていることの一部を生成AIに置き換えて、自分の生活をデザインするようなイメージを使ってみてといいと思います。

## 「教科書 AI ワカル」を先行体験！

続いて、東京書籍の万博・ヴァーチャルアカデミー推進室の田中貴裕さんから、弊社が開発している教科書学習用 AI アシスタント「教科書 AI ワカル」の紹介がありました。英語教科書『NEW HORIZON』の学習をアシスタントしてくれる一人ひとりに合った先生のようなデジタル教材とのことです。いったい何ができるのでしょうか。田中さんによると、「教科書 AI ワカル」には以下のような特徴があるそうです。

### 「教科書 AI ワカル」の特徴

- ◎中学生以上を対象とし、令和7年度版中学英語教科書「NEW HORIZON」に完全準拠。他教科についても現在開発中。
- ◎「教科書 AI ワカル」は、生成 AI を活用し、一人ひとりのニーズに応じた教科書の内容理解を深める学習サービス。
- ◎機能は以下の2種類がある。
  - 「ホーム対話」：「ここだけを詳しく聞きたい」「この範囲を問題化してほしい」など、学習者のリクエストに応じて教科書に基づいた解説や問題を即時作成。
  - 「対話型授業」：「何をすればいいか分からない」場合でも AI が学習の進め方を提示。教科書に沿った体系的な学習を提供し、学習内容の理解と定着をサポート。
- ◎パソコン、タブレット、スマートフォンなどの端末で利用可能。

予習や復習などの日々の自主学習にはもちろん、英作文や発表などのオリジナルで作るようなものにも細かく答えてくれそうですね！

機能の一紹介として、右図の「ホーム対話」では、「この Unit の Key Sentence ってなんだつけ？」「過去形とどう違うの？」などと入力すると、即時にスラスラと解説文が書き起こされます。画面を目の前にしているものの、まるで先生から一対一で教わっているように感じます。他にも、この写真のやり取りでは関西弁で解説文が返ってきてているように、AI の口調や教え方（優しめ、例示多めなど）も自分好みにカスタマイズする機能も備わっています。実際に私も体験させていただきましたが、地元の方言で解説文が生成された時には感動しました。AI でありながら、機械的ではなく非常に身近な存在のように感じられ、教科書の内容も入ってきやすいように思いました。

宿題やインタビューの準備をテーマにした会話文で、実生活にも役立つ内容になっとるで！質問があればどんどん聞いてな！

□□□

これって過去形とどう違う？

□□



ええ質問やな！現在完了形と過去形の違いを分かりやすく簡単に説明するで。

#### 1. 過去形 (Simple Past)

過去のある時点に起きたことを話すときに使うねん。その出来事が「いつの話か」が大事。

例文：

• I finished my homework yesterday. (昨日宿題を終えました。) → 昨日の話で、終わったのが「いつ」かを特に伝えたいときに使う。

#### 2. 現在完了形 (Present Perfect)

今つながりがあることを話すときに使うねん。「過去に〇〇をしたことがある」や「ちょうど終わったところ」「まだできていない」など、「現在」への影響や結果が重要。

例文：

• I have finished my homework. (宿題を終えたところです。) → 宿題を終えた過去の出来事が「今」に影響してる。例えば、今は宿題が終わっている状態やね。

違いをざっくりまとめるど：

• 過去形 → 出来事が「いつ起きたか」を意識。

• 現在完了形 → 出来事が「今にどう影響しているか」を意識。

例えば、「宿題」の話なら：

1. 過去形：宿題を「昨日やった」って過去のことをただ伝える。

2. 現在完了形：宿題を「終わらせたことで、今は結果的に自由や！」みたいに、現在とのつながりを話す。

これでイメージ掴めたやろか？もし追加で知りたいことがあつたら、また聞いてな！

□□□

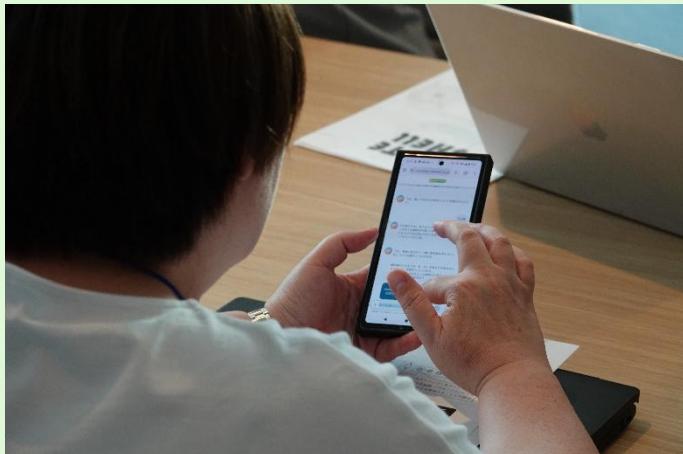
MEXT-PRODIにメッセージを送信する。

□ □ □ □ □ □ □



教科書AIワカルの回答は必ずしも正しいとは限りません。重要な情報は確認するようにしてください。

説明の後は、いよいよ「教科書 AI ワカル」の先行体験！ 田中さんをはじめ、担当者からのレクチャーをその場で受けながら、先生方は興味深く「教科書 AI ワカル」と対話をされていました。実際に体験された先生方からは「日進月歩の AI やデジタル教科書についていくのが大変ですが、可能性の高さを改めて認識しました」「名古屋から参加しました。日頃から AI の活用やデジ教の使い方についてモヤモヤしていたので、とっても勉強になりました。是非東京だけでなく、愛知でも開催して欲しいです」という声が聞かれました。



田中さん

教科書 AI ワカルの正式リリースは 2025 年 12 月を予定しています。現在は HP で無料の体験版を公開中。気になる方はぜひチェックしてみてください！

「教科書 AI ワカル」 URL : <https://kyoukasho-ai.tokyo-shoseki.co.jp/>

## まとめ

上記に加え、デジタル教科書のワークショップでも活発な意見交換や参加者間の機能に関する情報共有が行われ、終始盛況な様子でした。全体を通して、デジタル教科書も生成 AI も、その活用方法は一人ひとりの使い方次第であり、学校や学習者によっても多岐にわたることを感じました。事務局では次回のセミナー開催も検討されているとのことですので、今後の情報にもぜひご注目ください！